



城

第六十二回

城の楽しみ方

～特技懇誌第300号記念～

深草 祐一

本号は記念すべき第300号だということです。このシリーズ城も、昨年ついに連載60回を超えました。この連載を開始して以来、よく「一番好きな城はどこですか？」などと聞かれることがありますが、城を楽しむ観点は様々あって単純に一番は決め難く、いつも歯切れが悪い答えをしてしまいがちです。そこで今回は、世の城好きの方々が注目するポイントから、敢えていくつかの大括りポイントを挙げ、初心者向けからディープな沼の底へ向けて、様々な楽しみ方を紹介してみたいと思います。

STEP1：建築物

普通の方が「城」といって思い浮かべるのは天守閣だと思えますが、天守閣は無くても二重か三重すみやぐらの角櫓でもあれば、「城を見た」という満足感があります。なんと言っても写真を撮った時の「映え」が違います。城ファンにとっての価値としては、(1) 現存、(2) 木造復元、(3) 外観復元（鉄筋コンクリート）、(4) 復興（史実に基づかない形状）、(5) 模擬（そもそも無かった天守や櫓を空想で建てたもの等）、といったところですが、写真映えの良さはまた別の観点でしょう。近年は、天守閣以外の、御殿、櫓、門、塀などを木造復元した城も増えています。また、小規模な城跡に、木柵、板塀、井楼矢倉せいろうやぐらなどをリアルに復元した所もあって、これぞ戦国の城という感じがします。

木造復元といえば、白石城（宮城）、掛川城（静岡）など。復興や模擬でも見応えのある天守が建つ城（超有名所を除く）としては、郡上八幡城（岐阜）、伊賀上野城（三重）、今



治城（愛媛）、中津城（大分）など。また、天守は無いものの雰囲気のある建築物がある城としては、駿府城（静岡）、高松城（香川）、佐賀城（佐賀）など。リアルな戦国の城を再現した城として、逆井城（茨城）、荒砥城（長野）など。戦国の町屋を再現した一乗谷城（福井）もお薦めです。

STEP2：防御構造

敵の攻撃を防ぐための構造に着目します。上記建築物と一部重複しますが、天守や櫓の石落し、塀の弓狭間きまや鉄砲狭間てっぽうまなどの細部から、門周辺の枡形ますがた、馬出し、横矢掛りよこやがかりなどの構造と、それらを形作る石垣の形状等を細かく見ます。そして、郭の配置、掘割、通路の通し方、要所の防衛拠点の配置等々、いわゆる縄張りと呼ばれる城郭全体の構成の工夫こそ、城の本質といえるでしょう。これを楽しむためには城域全体を歩き回る必要があります。

建物より石垣等の構造物を見る城としては、岩村城（岐阜）、大和郡山城（奈良）、高取城（奈良）、竹田城（兵庫）、丸亀城（香川）、岡城（大分）、今帰仁城（沖縄）など。



STEP3：城にまつわる歴史

その城の攻防戦や周辺で行われた合戦の経緯を知った上で、戦の現場を訪ねます。また、築城者や城主であった有名な武将等の生涯を知って、その面影を訪ねるなど、歴史ロマンに触れる楽しみ方です。「シリーズ城」では、まずはこのためのネタを書くようになっています。できれば、現地パンフレットに書いてある程

度の情報に頼るのではなく、直前にネット等で歴史を詳しく調べ直してから訪問することをお勧めします。歴史エピソードにまつわるスポットを見落とさないように。

例えば、会津若松城（福島）、春日山城（新潟）、躑躅ヶ崎館（山梨）、石垣山一夜城（神奈川）、上田城（長野）、小谷城（滋賀）、安土城（滋賀）、月山富田城（島根）、吉田郡山城（広島）、肥前名護屋城（佐賀）、原城（長崎）など。



STEP4：城の立地・地形

日本の城は、自然地形をうまく利用しながら最小限の工事で最大の防御効果を出すように工夫されています。街道沿いの適度な山、平野に突出した小山、川の合流点、河岸段丘、泥田の中の島状地など、城地として選ばれた地理的位置や地形に着目します。また、歴史を知ると、なぜここに城が必要だったのか、なぜ争奪戦になったのか、なぜ容易に落とせなかった又は容易に落ちたのか、などが気になってきます。城の周辺の地図をにらんで当時の戦略目標と、前後に起きた合戦の経緯を調べていくと、その意味が分かってくる場合があります。そして、それらを調べた上で現地へ行ってみると、戦場の広さや地形、軍勢が移動・対峙した距離感、川や崖といった移動不可能な場所の存在など、なるほどと思うことが多々あります。私はシリーズ城を「現地に行ったことがある城しぼり」で



書いていますが、特にこの点に面白みを感じた城を選ぶことが多いです。

選地の点で面白い城は、仙台城（宮城）、鉢

形城（埼玉）、小諸城（長野）、岐阜城（岐阜）、門司城（福岡）、唐津城（佐賀）など。古戦場を含めた地理・地形が面白かった城は、忍城・埼玉古墳群（埼玉）、長篠城・設楽ヶ原（静岡）、浜松城・三方原（静

岡）、勝龍寺城・天王山（京都）、屋島城・源平古戦場（香川）、備中高松城・蛙ヶ鼻築堤跡（岡山）など。

STEP5：城跡の遺構

石垣などの明確な構造物が残っていない城でも、堀跡や土塁跡などの城郭構造物の痕跡が残っています。それらを見分け、往時の縄張りを想像しつつ城地を探索します。この辺りからマニアの世界に入ってくるので、それなりの知識と慣れが必要になりますが、特に山城の跡では、尾根筋を削平して郭を造り、傾斜が緩やかな所には堀を切って土塁を構築し、通路を地形に沿って折り曲げ、通路上に防御陣地を配置し、といった、地形を活かした築城技術の妙に注目です。また、宅地化が進んで破壊された城跡でも、堀の跡が



道路に変わっていたり、民家の境に土塁が残っていたりするのを発見する面白さがあります。

遺構探索を楽しめる城として

は、小幡城（茨城）、滝山城（東京）、小田原城古郭（神奈川）、新府城（山梨）、山中城（静岡）、田中城（静岡）、高天神城（静岡）、七尾城（石川）など。

STEP6：あやしい城・城様建築物

一見城に見えますが歴史的根拠のない天守閣型の建物や、なんだか城っぽい建築物のことです。地元の観光資源として建てられた資料館や展望台等の他、温泉センター等の施設の外観をお城っぽくしているもの、また、トイレや電話ボックス等にお城っぽい外観装飾を付けているものもあります。これらを見つけて喜ぶようになると、かなりのマニアと言えるでしょう。敢えて事例は挙げませんが、各地に結構あります。また、NHKの撮影所となっている筑波の「ワープステーション江戸」では、大河ドラマ等に出てくる中世っぽい城と近世っぽい城の屋外セットを見学できます。

いかがでしたか。シリーズ城を楽しみに読んでくださっている方々には、是非、より深いSTEPへ踏み込んで下さることを期待しています。